ご 挨 拶

本日は"A-Winds45" 2014年 夏の演奏会にお越し下さり、誠に有難うございます。「こころ豊かな文化の香り高き町 大和郡山市」のお城の麓"やまと郡山城ホール"で皆様方と、こうしてお逢いすることができましたことに、A-Winds一同、心より感謝申し上げます。

1999年10月"アンサンブル"という少人数の音楽スタイルの延長上に位置付け"ウィンドオーケストラ"と称し、大人数編成で、遷都1300年の歴史を誇る奈良の都に発足しました。

同年の秋に初の舞台"デビュー演奏会"を開催、以後四季折々に開催する、A-Windsの定期演奏会も、第43回目を迎えることができました。これもひとえに、我々A-Windsの活動、そして共に音楽をこよなく愛して下さった皆様方の御指導、御支援の賜物と心より御礼申し上げます。

今回は、オーケストラ、吹奏楽団、ビッグ・バンド、アンサンブルソロにと、あらゆる音楽ジャンルにおいて、第一線でご活躍のトロンボーン奏者の松下浩之氏を、前回の演奏会に引き続き、客演指揮者としてお招きさせていただいてのプログラム。

私が語るのもおこがましいですが、奏者としての才能は勿論のこと指揮者、作曲、編曲、ピアニスト、イベント企画、プロデューサーディレクター、講演、審査員、執筆、乗馬……とマルチに活動にも取組まれ、音楽界をあらゆる姿で行き来し、お客様の心を鷲づかみ。

タキシードを着て彦星に扮する、音楽界の快人二十面相……。その類稀なる才能を、客席の皆さまと一緒に満喫をと、乞うご期待です♪

七夕に　歳重ね尚　願い事

A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラ 団長　魚谷 昌克

*

本日は"A-Winds45" 2014年 夏の演奏会へお越しいただき、誠にありがとうございます。多くの皆様に支えられまして、この度も無事演奏会を開催できますことを団員一同嬉しく思っております。

さて、今回の演奏会では英国出身の作曲家による楽曲を中心に、吹奏楽界ではまさに「王道」ともいえる形式・構成を持つものを多くプログラムに揃えました。曲名に「祝典」の意味を持つハンティンドンセレブレーションは、その名の通り非常に快活なメロディーと朗らかな対旋律が特徴であり、演奏会のオープニングを飾るのに相応しい曲です。それに続くタイムリメンバードは、同一の作曲者でありながらその曲想はうってかわって抒情的で美しいコラールが特徴であり、数々の名曲を世に送り出した吹奏楽界の大家の隠れた名曲と言えるでしょう。第一部のラストを飾るのは組曲「惑星」で知られるG.ホルスト作曲の「吹奏楽のための第二組曲」です。イギリスの民謡を題材にしたこの曲は、今回の演奏会のテーマを体現したもう一つのメイン曲でもあります。そしてプログラム最後に演奏いたしますP.グレイアム作曲の「地底旅行」はジュールベルヌによる同名小説を元に作曲されているため、曲目紹介をご覧いただければ、移り行く旋律の中に小説の大冒険の情景を想像していただけるのではないかと思います。

変拍子や不協和音を複雑に織り交ぜた現代曲を演奏する機会の多い当団ではありますが、今回は「譜面がシンプルだからこそ表現が難しい」曲の音楽作りに、客演指揮の松下浩之氏とともにこの数か月間励んで参りました。木管楽器の静かで美しい旋律が特徴的な曲から、金管楽器の明るいファンファーレが響き渡る曲に至るまで、さまざまに異なる曲想を楽しんでいただければ幸いです。

"A-Winds45" 2014年夏の演奏会　実行委員長　尾登勇介

A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラ

Flute & Piccolo
- 佐藤 由加里
- 佐藤 司
- 魚谷 陽子
- 小谷 愛奈

Oboe
- 桶谷 牧子
- 松井 志穂

Bb Clarinet
- 竹村 明恵
- 森本 幸恵
- 近藤 晴美
- 米田 彩乃
- 上野 彩香
- 大西 珠美☆

Alto Clarinet
- 大西 晴己

Bass Clarinet
- 塩崎 風咲子☆

Bassoon
- 満江 孝文
- 萱原 美華子

Alto Saxophone
- 鳥田 博一
- 三宅 利幸

Tenor Saxophone
- 初岡 和樹

Baritone Saxophone
- 八木 理

Horn
- 久野 耕三（休団）
- 大田 雅美
- 佐伯 直人
- 冨川 陽太
- 茂見 佳奈子☆

Trumpet
- 魚谷 昌克
- 表 恭子
- 竹腰 綾香
- 井上 寛治（休団）
- 谷田 弥生
- 鎌田 麻友
- 山本 洋介

Trombone
- 萱原 淳嘉
- 小泉 文浩
- 進藤 梓
- 田中 由美
- 木下真由美

Euphonium
- 藤村 晃世
- 尾登 勇介
- 池内 砂織

Tuba
- 杉浦 小道
- 堤 正治郎☆
- 阪東 遥平☆

Contra Bass
- 佐藤 良一

Percussion
- 久保 寛美
- 川本 理恵
- 松嶋 春香
- 浦野 佳美
- 梶本 雅子

Piano
- 八木 真木

Stage Manager
- 森田 晶☆

Announce
- 境 貴子☆

団員＝46名
☆＝エキストラ

"A-Winds45" 2014年 夏の演奏会 実行委員

実行委員長	尾登　勇介
副実行委員長	森本　幸恵
宣　伝（チラシ）	谷田　弥生・田中　由美
宣　伝（ミニレター）	木下真由美
宣　伝（ウェブ）	冨川　陽太
宣　伝（マスコミ）	池内　砂織
プログラムノート	尾登　勇介
印　刷	佐藤　　司

ご 案 内

AとHome Concert（あっとほーむこんさーと）

～A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラ("A-Winds44")&シンフォニックホーム 合同演奏会～

2014年11月30日(日)　13：00開演　奈良県橿原文化会館大ホール

1999年10月に発足したA-Winds、皆様の温かいご支援を受け、今年の10月で15周年を迎えます！　そこで15周年を記念し、奈良県を代表する吹奏楽団のひとつであるシンフォニックホームとの合同演奏会を催します。

他の楽団と交流することで、どんな音楽化学反応が起こるのか?!　団員もワクワクしながら、皆様のご来場をお待ちいたしております♪

AとHome Concert 実行委員長　藤村 晃世

43 A-Winds 2014年 夏の演奏会

SINCE1999 A-Winds NARA AMATEUR WIND ORCHESTRA

2014年7月6日(日)　13：30開場／14：00開演
やまと郡山城ホール 大ホール

主催●A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラ
後援●奈良県・大和郡山市・大和郡山市教育委員会・奈良県吹奏楽連盟

プログラム & プログラムノート

第１部 ―――――――― 団員指揮：魚谷昌克

ハンティンドンセレブレーション
A Huntingdon Celebration

◇作曲：フィリップ・スパーク／ Philip Sparke（1951－　）
◇出版：Anglo Music Press
◇演奏時間：約5分

この曲はイングランド中東部、ケンブリッジシャー州ハンティンドンを中心に活動しているアマチュアバンドである、ハンティンドンシャーコンサートバンドの創立10周年を記念して委嘱された作品です。

この祝典序曲は主題のパッセージをベースとした明るいファンファーレから始まり、クラリネットとサクソフォーンによる優しくテンポの良い主旋律と、ユーフォニアムの対旋律が朗々と歌われる主題部へと移行していきます。そして金管楽器群による中音域のゆったりとしたコラールを経て、再び主題部のメロディーがさらに多くの楽器によってより盛大に奏でられ、華やかに締めくくられます。初夏のさわやかな風が感じられるような快活な調べをどうぞお楽しみください。

タイムリメンバード（追憶されるべき時）
Time Remembered Elegy for Band

◇作曲：フィリップ・スパーク／ Philip Sparke（1951－　）
◇出版：Anglo Music Press
◇演奏時間：約8分

この「タイムリメンバード」は、「オリエント急行」や「宇宙の音楽」などテンポの速い難技巧の曲で知られるフィリップ・スパークの他の作品と比べると、日本での著名度はそれほど高くはないでしょう。

しかし、ゆっくり流れるテンポの中にも作曲者スパークの巧みな表現が組み込まれており、原題に『Elegy』＝哀歌とあるように曲を通して叙情的で非常に美しいハーモニーが奏でられます。

この作品は21世紀を迎えるにあたって数々の発展と、また混乱もあった激動の20世紀を追憶して作られました。どこか郷愁を誘う美しい旋律にどうぞ耳を傾けてみて下さい。

―――――――― 客演指揮：松下浩之

吹奏楽のための第二組曲 ヘ長調
Second Suite in F for Military Band

1. マーチ / March
2. 無言歌 ‘我が愛を愛す’ / Song without Words “I'll love my love”
3. 鍛冶屋の歌 / Song of the Blacksmith
4. ダーガソン幻想曲 / Fantasia on the “Dargason”

◇作曲：グスターヴ・ホルスト／ Gustav Holst（1874−1934）
◇出版：Boosey & Hawkes
◇演奏時間：約12分

この作品は1911年に作られたもので、『第１組曲』とともに吹奏楽のためのオリジナル作品の草分け的な存在といえます。構成は４つの楽章から成り、全曲を通してイギリス民謡が使われています。

1．マーチ：ルネサンス時代の陽気な踊りであった「モーリス・ダンス」で始まり、長い航海への出発を前に恋人との別れを悲しむ船乗りの歌「スワンシー・タウン」、そして軽快なアイルランド民謡「クラウディ・バンクス」と続きます。
2．無言歌 ‘我が愛を愛す’：この楽章のメロディは、イングランド島最南西端のコーンウォール地方の民謡で、結婚に反対する両親によって海に送られてしまった恋人を悲しんで歌う、少女の歌です。
3．鍛冶屋の歌：鉄を鍛える音が金管楽器の強烈なスタッカートによって模倣され、その上を木管楽器とホルンによってメロディが生き生きと奏されます。
4．ダーガソン幻想曲：イギリスの田舎の踊りと民謡である「ダーガソン」のメロディが何度も繰り返されます。途中伝統的なイングランド民謡である「グリーンスリーヴス」のメロディが重なります。

第２部 ―――――――― 客演指揮：松下浩之

デジタルプリズム
Digital Prisms

◇作曲：ラリー・クラーク／ Larry Clark（1963－　）
◇出版：Carl Fischer
◇演奏時間：約5分

この「デジタルプリズム」は和音展開や急緩急の三部形式など多くの吹奏楽曲で多用されている非常にオーソドックスな構成を持つ楽曲であり、国内外を問わずスクールバンド等でもさかんに演奏されているラリー・クラークの代表作の一つです。作曲者曰く、各部に挿入されるパーカッションの軽快なリズムは我々が暮らす高度にデジタル化された現代社会を表現しており、移り変わる曲想はプリズムによって鮮やかに照らし出される虹色のようにそれぞれが異なる色を表しているそうです。

ラリー・クラークは米国の作曲家ではありますが、この作品からは英国をはじめとする欧州諸国で育まれた伝統的な吹奏楽曲のスタイルを垣間見ることができます。伝統的な欧州のスタイルを踏襲しつつも、伝統に新風を吹き込む一曲をどうぞお楽しみください。

「斎太郎節」の主題による幻想
Saitara Bushi Fantasy

◇作曲：合田佳代子／ GODA, Kayoko（1973－　）
◇出版：全日本吹奏楽連盟
◇演奏時間：約4分

作曲者は大病を患った折に「生」というものについて深く考え、そこで音大生時代に罹災した阪神・淡路大震災当時の出来事や復興の過程を鮮明に思い出したそうです。震災を乗り越えた経験から生きることへの希望を再び見出し、自身も被災者の一人として東日本大震災の復興を願う思いから、東北地方の民謡をテーマとして選んだということがインタビューで語られています。

2014年度の全日本吹奏楽コンクールの課題曲の一つであるこの作品ですが、旋律には宮城県の松島湾一帯で歌われる民謡「斎太郎節」が用いられています。この曲はまたの名を「大漁唄い込み」といい、曲中に登場する「サイドヤラ」の掛け声から「斎太郎」の名ができたと言われているそうです。元来は大漁歌ということで明るく牧歌的な曲ですが、本作の導入部は重厚で、厳かな雰囲気さえ醸し出しています。そしてどこか物悲しさを誘う木管楽器主体のメロディーに金管楽器と打楽器群によるオブリガードが見事に調和し、主旋律が緊張感を保ったまま他の楽器に受け継がれていくという構成になっています。日本三景の一つ、松島の美しい情景を想像しながらお聴きください。

交響的情景「地底旅行」
Journey to the Centre of the Earth

◇作曲：ピーター・グレイアム／ Peter Graham（1958－　）
◇出版：Gramercy Music
◇演奏時間：約15分

この作品は、フランスの作家ジュール・ヴェルヌの同名のSF冒険小説からインスピレーションを得て作曲されました。オリジナルは、2005年にイングランドの名門ブラック・ダイク・バンドの委嘱により作曲されたブラスバンド（金管・打楽器のみの楽団）編成の作品で、その翌年に今回タクトを執られる松下氏が所属しておられた大阪市音楽団の委嘱によってこの吹奏楽版が完成しました。

原作の小説は、鉱物学の世界的権威であるオットー・リーデンブロック教授の甥アクセルの日記という形で書かれています。また音楽は、闇夜のスネッフェルス山頂のシーンから始まり、この「日記」の時系列に添って描かれています。《骨董店で購入した古文書の中に、16世紀のアイスランドの著名な錬金術師が書き残した暗号を偶然見つけたリーデンブロック教授は、「わたし（アクセル）」とその解読を試みた。そこには、『アイスランドのスネッフェルス山の頂にある火口の中を降りていけば、地球の中心にたどり着くことができる』と記されており、その暗号に従ってさっそくアイスランドに渡り、現地で雇ったガイドのハンスとともに、死火山スネッフェルスの火口を下っていった。

途中「わたし」が２人とはぐれてしまうトラブルがあるものの、数十日かけて地球の中心部である大空洞に到達する。そこはオーロラのような電気現象で照らされていて、海があり、キノコの森が繁茂し、地上では絶滅したはずの古代生物たちが闊歩していた。

そして地底の海を航海の末、さらに下へ進むトンネルを発見するが、その奥は崩れた岩で塞がれていた。道を開くべくその岩を爆破するが、その衝撃で生じた激流に呑まれ、活火山の火道に紛れ込んでしまう。しかし自分たちがマグマとともに上昇中であると気づき、そのままストロンボリ島の火山噴火に乗じて無事に地上に生還することができたのです。》

松下浩之 プロフィール

1964年、神戸に生まれる。幼少より音楽に興味を持ち、6歳よりエレクトーンを始め、10歳で演奏活動を開始。

中学校で吹奏楽部に入部。トロンボーンに出会う。この頃から約10年間にわたってピアノ、エレクトーン、作・編曲法、音楽理論、ソルフェージュなどを藤澤 功氏に師事する。高校時代より学生指揮を務め、数々のアレンジを手がける。

1983年、大阪音楽大学音楽学部器楽学科トロンボーン専攻入学。トロンボーンを故 土橋康宏、呉 信一の両氏、室内楽をダニエル・ドワイヨン氏に、特別指揮法クラスで辻井清幸氏に師事。在学中、大阪音楽大学吹奏楽研究会常任指揮者を2年間務める。これまでに、ブラニミール・スローカー、デニス・ウィック、ミシェル・ベッケ、クリスティアン・リンドベルイ各氏のマスタークラス、ハリー・リース、ミヒャエル・ユングハンス、新井英治、萩谷克己、故 白石直之の各氏のレッスンを受ける。在学中よりオーケストラ、吹奏楽団、金管バンド、ビッグ・バンド、ライブハウスなどのエキストラ奏者として、さらに指揮、作曲、編曲、またイヴェントの企画、プロデューサー、ディレクター、講演、審査員、執筆・・・とマルチに活動。

1987年より大阪音楽大学非常勤教育助手を1年間務め、1988年、大阪市音楽団に入団。1992年、第44回プラハの春国際音楽コンクール（於チェコ）入選。同年、第1回全日本フランス音楽コンクール 審査員賞（管弦打楽器最高位）受賞。1993年、第2回全日本ソリストコンテスト奨励賞受賞。第1回大阪国際室内楽コンクール入選。

1994年度、月刊「バンド・ピープル」誌に“スペシャルエッセイ”を1年間執筆。2008年、イヴリズ・ジラール女史（仏）とトロンボーン・デュオによるコンサートを開催。以来、毎年共演する。2009年、WDRケルン放送交響楽団トロンボーンセクションと共演。また同年、ハリー・リース氏率いるwes10（金管アンサンブル）のドイツツアーに参加。現地紙にて高く評価される。同年度、月刊「バンド・ジャーナル」誌の“演奏に役立つOne Point Lesson”の講師を1年間勤める。2011年、神戸にて、ドイツ作曲家の作品のみによるリサイタルを開催。2013年、大阪市音楽団退団。マウスピースメーカーwillie'sよりシグネチャーモデル“Art's Opus”を発表。2014年、“吹奏楽鉄人のバンドクリニック”プロジェクトを始動。

現在、大阪音楽大学、神戸山手女子高等学校音楽科、ESA音楽学院各講師。MAH TRIO、Apollo Trombone Quartet、H.G.Q、After Hours Sessionなどのメンバー。伸縮倶楽部主催。日本トロンボーン協会、神戸音楽家協会会員。関西トロンボーン協会理事。福祉の管弦楽団「まごころ」音楽監督兼常任指揮者。1992年より大阪府立大学吹奏楽部トレーナー。A-Windsとは今回、3度目の共演。

写真提供：松下浩之氏

A-Winds メンバー募集

●募集パート
・Oboe*　・E♭ Clarinet　・Bass Clarinet　・Bassoon・Contra Bass
・Stage Manager ―――――――― 各１名
・Tuba　・Horn ―――――――― 各２名
・B♭ Clarinet ―――――――― ４名

＊イングリッシュホルンも演奏できる方、イングリッシュホルンもお持ちの方、大歓迎です！まずはご相談ください！

●A-Windsの活動趣旨（ウィンドアンサンブル＆オリジナル重視）に賛同頂ける方
●ご自分で楽器を準備できる方　●全ての活動に賛同頂ける方
●18歳以上の方　●詳細はお問い合わせ下さい。

問い合わせ先は＜e-mail＞a-winds@amber.plala.or.jp

募金のお礼とご報告

A-Windsでは演奏会開催ごとに「東日本大震災の義援金」を募っております。

前回の演奏会、2014年3月9日開催のA-Winds 42では9,724円の募金をお預かりしました。

また、募金を開始したA-Winds 38では20,407円、A-Winds 39では5,733円、A-Winds 40では3,228円、A-Winds 41では18,633円の募金をお預かりしました。

皆様からいただいた貴重な義援金は、演奏会終了後にA-Windsが責任を持って日本赤十字社の義援受付口座に全額を振り込んでおります。募金にご協力いただいた多くの方々に団員一同、厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。